

東日本大震災
3.11 から 14 年

東北、 推しスポット大賞

結果発表!!

最優秀賞



岩手県
陸前高田市

高田松原の今

菅原秀子さん

エピソード 東日本大震災で、名勝「高田松原」の7万本の松は1本を残し消滅しました。でも市民は諦めませんでした。隣町・住田町の女性が震災前に拾っていた松ぼっくりの種を寄贈してくれたのをきっかけに再生を目指して苗木の植樹が始まり、2017年からこれまでに4万本の植樹が完了。あれから7年、2024年9月に私は民泊を受け入れた神奈川県の高校生と一緒に高田松原を訪れました。松は順調に成長し、通路の先には海と空と砂浜が広がり、波の音も心地よく感じられます。震災前に散策していた日々が蘇って懐かしく、嬉しさがこみあげてきました。これから先も、松原の松は街の復興を見届けてくれるはずです。

福島県
いわき市
四倉海岸

いわきの夏

望月彩花さん

エピソード 私の地元はいわき市です。いわき市といえば、海が自慢です。東日本大震災では、津波の影響で多くの方が命を落としました。海は怖いものというイメージを持たれた方も多くいると思います。私自身も、震災から10年以上が経った今でも、海へ遊びに行くと当時の映像が思い出され、「もし今地震が起きたらどこへ逃げようか」と考えてしまいます。それでも海へ足を運ぶのは、この美しい自慢の景色を大切にしたい、目に焼き付けたいと思っているからです。東日本大震災の教訓を忘れずに、自慢の海をこれからも大切にしていきたいです。

最優秀賞



2011年3月11日の東日本大震災から14年。甚大な被害を受けた東北の被災地は各地で復興が進み、まちの様子は大きく変わっています。2011年以降、東北の被災地に身を置いてきた私たちは「3.11」を想うきっかけの一つとして、今年は「東北、推しスポット大賞」を実施しました。2024年12月20日から2025年2月2日まで、200件近くの写真とエピソードが寄せられ、審査

の結果、最優秀賞2作品、優秀賞6作品、入賞3作品、佳作21作品の計32作品を選出しましたので、ここに発表します。東北に住んでいる人や被災地へ通い続けている人、旅で訪れた人など、たくさんの皆さんにご応募いただき、誠にありがとうございました。

続きはP2-3へ



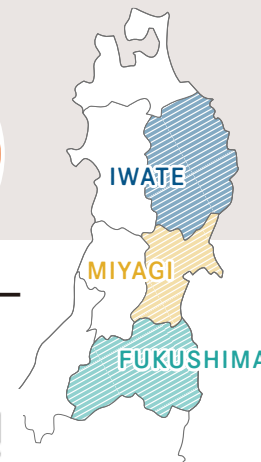
被災地を
支援する

東日本大震災から14年 3.11の教訓を次の世代へつなぎ、 災害に強い社会へ

東日本大震災から14年。Civic ForceのNPOパートナー協働事業では、「コミュニティ再生」「福島・保養支援」「記憶の伝承」の3つを軸に、将来を担う若い世代とともに被災地域の復興を後押しする取り組みを応援しています。3月から始まる新しいパートナーとの協働事業についてお知らせします。



NPOパートナー
協働事業



宮城

Team大川 未来を拓くネットワーク

もう一度、笑顔あふれるふるさとを！



東日本大震災の津波で児童や教職員ら84人が犠牲になった宮城県石巻市立大川小学校。卒業生らが2022年、任意団体「Team大川 未来を拓くネットワーク」を立ち上げ、地域住民が集まるコミュニティ拠点や全国からの来訪者との交流の場をつくって

います。代表の只野哲也さんは、当時5年生で避難中に助かった4人の生徒のうちの1人。震災後、地元の若者らと解体が危惧されていた校舎を残すために尽力し、現在は「大川小学校を悲しいだけの場所にしたくない」と、イベントやワークショップ、学校近くの賃貸借地の整備、大川小学校ガイドなどの活動を続け、新たなコミュニティづくりへの想いを発信しています。

地域の少子高齢化が進む中、NPOパートナー協働事業では3.11の教訓を伝える伝承活動に、若い世代の参画が増えてきた今こそ、その活動の基盤を支える支援を開始します。そして、子どもの命を真ん中に置いた災害に強い社会の実現を目指します。



宮城

海見える命の森実行委員会

3.11追悼セレモニーの開催をサポート



宮城県北東部の三陸海岸に位置する南三陸町。志津川湾と市街地を一望できる「海見える命の森」は、震災後、木々が鬱蒼と生い茂る森を切り開いて整備されました。地域の有志やボランティアらによって散策路やトイレ、かまど、避難場所として活用できる小屋などがつくられ、自然体験学習や災害について学べる場となっています。高台には祈念碑や「南三陸大仏」などが設置され、震災で亡くなった人に祈りを捧げる慰霊の場としても定着しつつあります。世代を超えて震災の教訓を伝えていく役割を果たすこの森を後世に残していくため、NPOパートナー協働事業では、同会が実施する「3.11 海見える命の森 追悼セレモニー」の開催をサポートします。



岩手

宮城

福島

帰還困難区域に指定されている福島県大熊町で活動する団体や岩手県大槌町を拠点に伝承に取り組むNPOなどとの協働事業も開始予定です。詳しくは近日中にHPで公開します。



緊急
支援

岩手・大船渡

山林火災の被災地で活動中

岩手県大船渡市で2月26日、山林火災が発生し3,500人以上が避難を余儀なくされました。東日本大震災の被災者も再び被災するなど被害の広がりを受け、Civic Forceは2月28日、隣県の宮城からスタッフを派遣。避難所などへ物資を届けながら、避難者の健康維持のためのサポートや感染対策など移り変わるニーズに合わせた支援活動を続けています。



詳しくはこちら



前ページに続き、入賞作品の一部をご紹介します。

東日本大震災 3.11から14年 東北、 推しスポット 大賞 結果発表!!

その他の作品も
ホームページで
公開中!!



優秀賞



会津美里町

エピソード 東日本大震災の後、奥会津大洪水に見舞われた会津地区。寸断された只見線は運休が続いていましたが、2022年に復興されて現在は通常運転へ。2024年秋、会津美里町蓋沼公園から見える只見線を撮影しました。公園から見える只見線が「私の推し」です。

佐山勝信さん

優秀賞



天空の島

エピソード 震災後、橋の開通により大島へ車で行けるようになりましたが、リフトは止まったまま歩いて山頂へ。登り切ると、苦労を忘れるほどの絶景に出会いました。復興した姿と未だ残る傷跡、両面を見た大島の亀山。美しい景色はこれからも変わらないでしょう。

須山恵美さん

優秀賞



ワインドメニューと
展望台

エピソード 「富岡漁港で獲れた魚をカルパッチョにして、富岡で創ったワインで乾杯する時が、俺たちの復興だ!」原子力災害に襲われ長期にわたる避難を余儀なくされましたが、先の見えない不安や中傷を払いのけ、2025年4月、ついにワイナリーが誕生します。葡萄園内の展望台からは富岡の過去と現在、未来が見えます。

青木淑子さん

優秀賞



松島の遊覧船

エピソード 東北・仙台旅行で訪れた松島の地。天候に恵まれ、乗船を心待ちにしていた1人の少年が親の手を握りながら、やってきた遊覧船を見つけました。東北を襲った悲劇から10年以上が経ち、穏やかな海や子どもたちのかわいらしい声も聞こえてくるようです。

大岡寛治さん

優秀賞



気仙沼の「里」

エピソード 震災後、2016年に一人旅で東北へ。「今、行くべきだ」と「本行っているのか」との狭間で迷いながらでしたが、当時、福幸横丁の居酒屋「里(さと)」で気持ちがホッとほぐれました。写真は久しぶりに連絡した店主から届いた「里」の突き出しです。

クレテナ新聞さん

優秀賞



海霧

エピソード 牡鹿半島の先にある金華山へ定期船で向かう途中、海域に「海霧」が発生して半島がすっぽりと包み隠されていました。東北地方は「やませ(偏東風)」などが発生しやすい気候ですが、初めて見る光景で、とても見応えがありました。

kentさん



車両管理で山陽パーツと連携

1月24日、佐賀県で株式会社山陽パーツへの災害支援用トレーラー引渡式を実施しました。災害時に活用する車両について、車両の点検・管理を専門とする企業との連携を通じて、これまで以上に迅速かつ丁寧に被災地のニーズに応えていきます。



配布会で4団体に物資を提供

2月19日、佐賀県で物資の配布会を実施し、子ども支援などに取り組む4団体にティッシュ、マスク、靴下、衛生キットなど7アイテム、38箱を提供しました。平時の配布会を通じて災害時ネットワークの強化を目指しています。



講演・講座・報告会情報

地域づくり交流会で登壇

地域づくりに関わる多様な団体・企業などが集まる交流会「つながるチカラで、佐賀をもっと安全に～南海トラフ大地震が迫る今、私たちにできること～」が2月22日、佐賀市市民活動プラザで開催され、Civic Force代表理事の根本佳織が登壇しました。



神戸龍谷高校でオンライン講演

1月29日、兵庫県の神戸龍谷高校総合コース1年生約100人に向けて、災害被災地の現状やCivic Forceの活動についてお話ししました。また、同コースの探究学習で「防災・安全」を選択した生徒らが、本を回収してNPOに寄付する「charibon」の活動に取り組んでいます。



「Good Links」の成果を報告

トヨタ財団主催のプロジェクト成果報告会が2月1日、東京都内で開催され、Civic Forceが2021年から運営するオンラインマッチングプラットフォーム「Good Links」の現状と成果について報告しました。



メディア情報

03.02 **新聞** 朝日新聞
「和歌山県 南海トラフ想定 パチンコホールを避難所に活用も」

02.09 **TV** BSよしもと「トイレの旅」

選手会ファンド ご支援のお礼とご報告



Civic Forceと日本プロ野球選手会が運営する「日本プロ野球選手会災害支援基金（通称：選手会ファンド）」は、2024年12月から2025年2月にかけてクラウドファンディングとチャリティオークションを実施しました。リターン品をご提供いただいた選手やスポーツファンの皆様のおかげで、973万9,639円が集まりました。ご寄付は災害の被災地でしっかり役立てます！

詳しくは
こちら



企業の皆様へ

寄付付き商品・サービスなど
様々な方法で
気軽にご支援いただけます！



1日33円からできること

次の大規模災害に向けて平時から備えておくために皆様の力が必要です。マンスリーサポーターとして毎月定額（1,000円単位）のご寄付で支えてください（クレジットカードのみ）。また、団体活動全般へのご寄付は以下の口座で受け付けています。

● 銀行：三井住友銀行 青山支店 普通 6953964

● ゆうちょ：00140-6-361805

上記いずれも口座名義は
「シャ）シビックフォース」

● クレジットカード：HP「オンライン募金」より ▶



SNSで最新情報をお届けします

シビックフォース



ニュースレターのバックナンバーはこちら▼

<https://www.civic-force.org/about/publication.html>

メールマガジン「被災地の今を知る」登録▼

<https://www.civic-force.org/mailmagazine/index.html>